中

W 52-3
F 67
2



14501

大通文庫藏書印

かゝ

かゝ

かゝ乃

かゝる

かゝるの

かゝれ

かゝれど

かゝれば

かゝれバ

かゝれバヤ

かゝれバヤ

かゝれバヤ

かく かく
かく
里まで
かうこのやうにするどく
古 あうんとあひ
ずまひをつめてゐるも
かうてこそ
と乃ふ
かくるゝ
かうてこそ
かくるゝ
かうてこそ
古カウシテコソナリ
新カウシテコソナリ
かくる
かくる
里
かうてこそ
又
古カウシテコソナリ
新カウシテコソナリ
ドウシテナリトモ
かくれもせず
かくれもせず
かくれもせず

古カウシタ
かくる
役
いも
かくくろ

かくくろ

かくくろ

かくくろ

かくくろ

かくくろ

かくくろ

かくくろ

古コレホド
かくくろ

拾コレホド
くくくろ

日

六帖

古

かくる
かくる
かくる

かくる

かくるよ

顕昭説よ毎事とう云ふ但下ふよよめる和文もかまとい

つはけて

とて後るべし

雨をこれば只教といふ

カざ

古ノ

古何カニツケテ

うるて

拾

古

ナ物デ有ダ

ケテ

和文三ふりもを

ま我をわまれあ

ふ山乃かすまを

あれたるみよ

何カニツケテ

イニデハ

今ごの世乃う

コチヤ

元とそれる

かくる

かくてよ

かくつふ

と

里

うよまあかう

ふりらる体

そバ西の

花

かすが

古
ひとふれてゆきやはきえぬ春霞
返
春霞たてるやいづこみよしのの
よしのの山にみ雪ふりつつ
春
かたてにはちるもこころぞなかりける
かたてにはちるもこころぞなかりける
ふるさとは花こそ昔にほひけれ
ふるさとは花こそ昔にほひけれ
人はいさこころもしらず故郷は
花ぞ昔の香にほひける
春霞かすみのころもほすてふ
春霞かすみのころもほすてふ
あまの香具山
あまの香具山
うぐひすの谷よりいづる声なくは
誰かはるくる人もこざらむ
うぐひすの谷よりいづる声なくは
誰かはるくる人もこざらむ
春の夜の闇はあやなし梅の花
色こそ見えねかやはかくるる

そべて
林 君のごん
千 第のやう
か、神て

かつて里よりおのうへかくびろよ

城后よう
古 あみうも
ばかりも
なのやう
又方

(ヤハリ何ヨリモ)

(ヤハリデモ)

(何カニラズ)

(アノスコシバカリ)

(タノン)

(何カ不知)

(デアルニギヤ)

(テアルニヨツテ)

(ヘビロニ何カニラズ)

(ウソ)

(ヒロニ)

(ヨツテ)

かくりて
かくりて
をもふ
ぐし
ぐし
ぐし

（ナデモ）なるまま（マヽリ）にうちそよめて（ズニ）あれなるまつよかる（チガヒナシ）

（テシニウ）松（野）ちかきあたりと松ちかき風もたゝ（ルモノヂヤ）せうりかるゝて（キット）萩の上葉の

ねうしくうるく

かへるく

かへるく

かへ

館 みるをもくめをなま海乃海よ出てかゝる（ナンベンモ）（サテモ）（二井ルコトカナ）

けよ

けぬ 黒 と同心 ころまで いくそらぢ 他乃事をうけて しばふ

ろ乃多 変 ろといふ 公乃乃あ

日 月をわするゝ時をなるゝ（イケレド）

（十ゼ） ろ（バッカリ） 秋乃ほ

（タゴタロジイナガラモ） ろんけよ山乃

うら 黒 ろ（ナホド） 何ガラズ

むこ て公浮ま（ツテアル）

古 みちそ乃変てゐも科る わ乃（コホドオホク）

（デタロジ）

古 よのなうらめしいふくるとよ（ドヤウニ）
こ こんこてらめ人てうら（デアラウゾコイタイ）
と れ
さしまけるぞゆくもまよ
すてあつくらいふ
とてていなよ拾
笠をひろ
地よかくとあ
但
於 ちとせと（何カシラズ）
伊 わすれ
古 そこ（何ヨリモ）（イニデハ）（チヤ）
（デアラウケドコレ）（ハイコレガ）（デアロウ）（ルヨッテ）（ヂヤノニ）（ウモノヂヤノニ）

攸 こそをみすゝめあそ

うぐひすのこゑ

後 こ(カカ)れがかの何ぢめやぞ

伊 こ(カカ)れのかの何ぢめやぞ

古 ヨク思ヒ合ヘテミベ 大(カカ)ゝこい風をもめてこれ(ニイ)

こゝろの里言同

古 ふく風(ニ)

末 山吹の花のさそうふ(ニ)

又 そ(ニ)

(ニ)

(ニ)

ありそ海よせくる浪のそのたびに
いはほの数はまさりけるかな

秋ふかみ
古 もろともにあはれとおもへ山ざとの
　　ビテアル
　　ガ
　　ヨ
　　ヒ
　　ソシテ
　　タ
　　ソンナラ
　　ガ
　　何ヨリモ
　　チヤソ
　　ウモノヂヤノニ
　　カクベツニ
　　デアラウ
　　ガ
　　何ヨリモ
　　カクベツニ
　　モミヂ
　　デアラウ
　　ガ
　　ヨ
　　ヒ
　　ソシテ
　　タ
　　ソンナラ
　　ガ
　　何ヨリモ
　　カクベツニ

なくしてあるものやうをいふ

梅乃古

こと、は

イテアル

ソレ〳〵

ことあるを

ニシテミタラ

ソレ〳〵

何ゾシラズソレ〳〵

ことあるは

ズニアルモノヂヤケル

ウモノゾ

ことあるまゝ

ことあるは詞也

ことあるよ

とてもの

ことふ。

ある

ことくふ

トイフ

ことを

ツヅケクルコトバ

かるなり

トテモニ

ふるこゝろ

ツヅケクルコトバ

ふるこゝろ

ヤウニ

ふるこゝろ

ツヅケクルコトバ

ふるこゝろ

テヤロ

ふるこゝろ

フテクルヨ

ふるこゝろ

デハナイカイノ

ふるこゝろ

モセヌニ

ふるこゝろ

ふるこゝろ

ふるこゝろ

こと乃
うたの
ほの
めさ
そき
さこそ
さこそ
さそ
さそ
さそ
さや
そや
そのやうは

(ハ)

(ナ)

ゆきかへる
ゆきかへる
ゆきかへる

羽 古 金 抄

どうなりともどのやうにでもとらしべし・又
こそいとよもしはこれ此例なり
白もふさもさうもなりてあつてなんの今ゾ（ニタ）
ゆめよくふさもさうもなりてあつてなんの今ゾ（ニタ）
うつゝよふさもさうもなりてあつてなんの今ゾ（ニタ）
はうらいもさうもなりてあつてなんの今ゾ（ニタ）
あくまでもさうもなりてあつてなんの今ゾ（ニタ）
なりともさうもなりてあつてなんの今ゾ（ニタ）
夜のつゞるこのてをわれ（サヘ）
あつさもさむさもこゆるをかぎりとしてみるかわれ（イカ）
さうもなりともさうもなりてあつてなんの今ゾ（ニタ

ハ祝ふ（サテモ）

よろこぶ

よろこぶ事をもちて人に

祝ふ

祝ふ事をもちて一例乃ち色を

祝ふ

祝ふ事をもちてかゝることを

祝ふ

祝ふ事をもちてそこそこする調を

祝ふ

祝ふ事をもちて（何カシラズバ）そのよろこぶ

祝ふ

祝ふ事をもちて（テンニンラモギヤ）よろこぶあり

祝ふ

祝ふ事をもちて（廿）あめつちよろこぶ

祝ふ

祝ふ事をもちて（ナラハドウアラウト）よろこぶさまあるべし

祝ふ

祝ふ事をもちて（廿）こゝろも（コチラ）よろこぶ

祝ふ

祝ふ事をもちて（廿）ことも（コチラ）よろこぶ

祝ふ

祝ふ事をもちて（廿）ものさへ（ハルニカヤ）よろこぶ

祝ふ

祝ふ事をもちて（廿）（云ヘ廿ドウモ）よろこぶ

祝ふ

祝ふ事をもちて（ソレホドニ

うつゝにも
夢
あふことかたき
ぎょうぶきょう
墨
書てゐるぞうらやましき
サルホドニ
日サウシテ井ナガラ
きてゐるうらやましき
ぎょうぶきょう
墨
書てゐるぞうらやましき
テヰル
サウシテ井ナガラ
ナモノカヤ
デアルデアロウ
ソレナリニ
ソレナリニ
ハヤカラ
ソレナリニ
サウシテ井ナガラ
テアルケレドモ
ソレナリニ
ソレナリニ
ソレナリニ

さくらさくはなのしたにてさくらばなあかぬこころにわれぞしにける

ゆくはるをおしむこころはとどめあへずけるさくらにしられぬるかな

さくらばなちりかひくもれおほぞらはゆくはるとめむなごりなからむ

二例あり一例雲

さくらばなちりぬるかぜのなごりには水なきそらに浪ぞたちける

又

さくらばなちりぬるかぜのなごりにはいとどしづごころなくもあるかな

とよめるなどぞ

玉

あしひきのやまかきくもれさくらばなちるをみてだにこころとまらむ

宗于集

今ぞしるくれなゐにほふさくらばなうすくそめけむこころあさをば

サウヂヤ

二例

そのやうなるぞ

そのやうなるぞ

といへるも

サウニギヤ

さくらばなちりかひくもれおいらくのこむといふみちまがふがに

ソレホドヅ

ちりぬればこふれどかひもなきものをさくらばなをばうしとやはみる

サウ

ソヤウニヅ

定家集

あすもこむとたのめやはするさくらばなちるまのほどもまちどほにして

さくらばなちりまがふまでとへかしなわれもいくかはありへむものを

何カシニヅ

さくらばなちりぬるよりはなかめにぞこころさへこそうつろひにける

さくらばなちりぬるかぜのなごりにはいとどしづごころなくもあるかな

とよめるなどぞ

こゝろもとなくおぼえ
とまりぬるほどいと
ゐなかびたるものゝ
なすわざかな
さるをあ
長
とゞひやるに
鍊
くへるをとゝ
ヨイハイヅ
さうぞくし墨
アヽサテモ
るまいかう
ソヤウニヅ
ゐるあいだ
デアロウ
ん
又推
ソヤウニソ
タイデアロ
ん
デアロウ
ん
此通イヅレヤサテ
キット
ツキリ サウアロウジャ
ヤクソク チャヅ
ハヌデハナケレド
キモノジブンタイカヤ
デナクテモ
サウセラウヅヤ
デアロウ
ん

新
千
新

二例あり、一例ハ雲ヨ
（扨）あさこうほを（十三ノ）のそ飛ーとも（クコデアロウ）
（ソシテ）ノ（シゼンハ）なのり（テウド此上ホシー）
二例ハ上乃ごとくよ同
金ヘキモツブレヤ（ナゼ）あのまゝかまうものかほ
（ソーコソハ）海よまさごそ（ホン）に人ごとくなりぬる
（ヌヤウニナツテシマフ）
（デアロウ）めてそ（テウド此上ホシー）
（ガ有タイ）ソレデもうるさくさまたげんとて
（何ヨリモ）そうどし通ってそ
（イモゼヤソレデ）も別ニうるさくさまたげんとて
（イカ）とよ
（ソレデ）てもやうをこうえ
（ドウデモ）ソレニタラ
（カト）ぬしやと
（ヌケレド）も
（ナヤト云テモ）ふるとも
そてみて
そてみて
そてみて

金
さまつかをよつかくるるもの
於 あの事ハ
さうろハ
さうとても
さうなよ

於 まろまろ
六帖 時ハ

ろくでなし

ろくろ

ろんぢ

ろんぢ

ろんぢ

又さうでござる大かう物が貴様よ
さなくばござるまい
里迄ござるまいか
ちとぬぐふ
ぬがさうなものを
扨其の父御前を救ふ
(サウナイノサヘ)
(サウナウテサヘ)
其の為にまいらう
(デナイ)
扨わ川迄もまいつて
何かござらぬ
(ハ舞用)
さうあらばしげ〳〵
(ソンナケ)
さうあるまい
(ニテアル)
扨其の事ぢや
扨其の事ぢや
但記のごとく
扨其の事ぢや
さうでござる
とうそくして
とうそくして
扨其の事ぢや

右 ゑすをいわのまにかなし（テシマヲタヽギヤソチヲバトヨミテ）
扶 くろなるみをもかなし（芦毛ソチヲバトヨミテ）
詞 トヨミテソチヲバ
さりとてゑすいしんぼう（ヲバモハヤ何ヲヤヨミ）
さりとてゑすをわするゝ
里 さんざうもさりとてゑすをわするゝ
さりとてゑすをわするゝ
又 いつもさりとてゑすをわするゝ
里 さりとてゑすをわするゝ

千 まつほらうやとのみりあるこそ
ナンボサウヨリ尼 さりとてゑすをわするゝ

さりとてゑすをわするゝ
里 さりとてゑすをわするゝ
さりとてゑすをわするゝ
又 さりとてゑすをわするゝ

かゝるまゝにてあるものを（イカナリトモ）
さりとてゑすをわするゝ（イニゴロハ）
里 さりとてゑすをわするゝ（テニヲハ）
さりとてゑすをわするゝ
又 さりとてゑすをわするゝ
さりとてゑすをわするゝ
さりとてゑすをわするゝ

又事あらんにも
とかくもなり
扨
いかゞはせん
二例ぶん
扨
三例ぶん
扨
扨
扨

古 あせもそういいつたえる

千 うきあせもの人のあり

廿六云ツクヤハリ てそまことそうしかなし

廿七モ 遠きりなん

うそうれしがる

エヲデハナレド ゆるあうう

廿八云モノ ハウ んまんまほん

廿九云モノ のみ

ゆかたをそすれぬ夜のかもち

「カナ廿八云ツクヤハリ ようそよめて

三十二八云ツクヤハリ いこゆるあうう

ものをつかうてもよあり

ふへバ新古と

ふるもかへバ乃

ふるの蛍乃とよ

ふるおよあへバ

ふるの也

ふるおよあへバ

ふるくよあり

ふるくよあり

ふるくよあり

乃公ノ里子ニ
ソウロウテ
ヨウロウテ
ヨウロウテ
ヨ

㊲

ぬまつゝ（テリニコチヤ ワキヒラミズニ）
（新）まてとつゝ
そろ（多ク上云）
すろ（上云）

里

あてどころ（ハヤテ井テ ゼヒトモ 何カシラズ）
めつゝよるどころ
（新）おもふまゝ（ドウシタ）
（ハ）何つゝ（ニヨツテノメツタニ）

㊳

せめて

せめて

里

つまはじめて

せめてつゝ（何ヨリモ ツキツメテ）
（モハヤ）みんな（イ）
（新）おもふまゝ（デアルツギヤ）

せめてつゝ事

（新）おもふまゝ（ヲアンデアラウズ）
（ハ）何つゝ（ヲアドオモニ）
（新）おもふまゝ（カイ）

（表）うつしとも

後世

里

風と
そ
そ
そ

古 詞 池ノ

古 十 ナホ

林 ツル

古 ヌル

古 ヌル

古 ヌ

争

一ヲソラスヨウニシテ二例アリ二例共ニ

ろうそくヲ

（ドウ云フワケデモ矛盾デ

池ノ

ソコモトデナシニ

ソッツ

ろうそくヲ

ろうそくヲ

ろうそくヲ

乃至ずてんぐ於ける神人会
狩衣乃至ずてんぐ於ける神人会
乃至ずてんぐ於ける神人会
まりまりまりまりまりまりまりまり
なりなりなりなりなりなりなりなり
まりまりまりまりまりまりまりまり
かりかりかりかりかりかりかりかり
若よ忠をでとよ忠をでとよ忠をでとよ

古こゝろ
林 ゟよもへて（ヨリ何ヲ）
又でよ（ダニヲ）
るでよ（デヨウヲ）
こゝろて（イデ）
よもあ
みる詞そ（何カシヌズ）
乃きり
くもやうる
よもてある（デヨウニ）
古こゝろ
風よ（ムセウニ）
樂
ゟそのつ（ハウモナウ）
儒者書乃古訓よ猶字
又古今集てとゝろそ
ゟまて
ゟそ（何カシラズ）
ゟそ（何カシラズ）
ゟそ（ダニヲ）
ゟそ（ダニヲ）
ゟそ（ダニヲ

千
今ハ未ダ
何カニシ
知ラズ
ソノ
ヤウ

ソノ
ヤウ

誰カ
秋風ヲ
カ
ナシト
ソ
ヤ
ラ
ン

秋

題しらず　　よみ人しらず

ふるさとは　ちりにしはなも　まがふまで
こずゑもしらに　ふくかぜぞうき

冬

かきくらし　ゆきのふるをば　しらなみの
よするなごりと　みるぞかなしき

雪

ふるさとの　はなのしらゆき　つもれるを
ちりにしはなも　まがふまでに

題しらず　　よみ人しらず

ふるさとの　はなのしらゆき　つもれるを
ちりにしはなも　まがふまでに

雪

ふるさとの　はなのしらゆき　つもれるを
ちりにしはなも　まがふまでに

をうつす　古

ふるさとの　はなのしらゆき　つもれるを
ちりにしはなも　まがふまでに

古 ヨノ海ノ
ドウデハ
チトモ
カタヽ
ツヨリ

古 ヨノ海ノ
ドウデハ
カタヽ
ナイ
タカド
タレド
サヘモ
テニヲハ
ナニダノ
上ニヤハカ
ナイ
ツヨリ

古 人ヲモ
風
ヨロコバセ
ツヽ
ヒトヲ
ドヨメ
ヲ
ツヽ
ナク
ヨロコバス
ヒトヲ
ドヨメ
ヲ
ツヽ
ナク
外デナニ
ヨロコバス
ヒトヲ
ドヨメ
ヲ
ツヽ
ナク

[illegible]
[illegible]
[illegible]

えんくとも
とかく
とかくかくとも
むつかるる
ことをいふ
ことなかれ
とかくかくとも
ことなかれ
とかくかくとも
ことなかれ
とかくかくとも

里文てもどうやうする

と云やうな事

19501

4N-5
i-085
Ka.72
2

日本醫師

国立国語研究所
1001094679